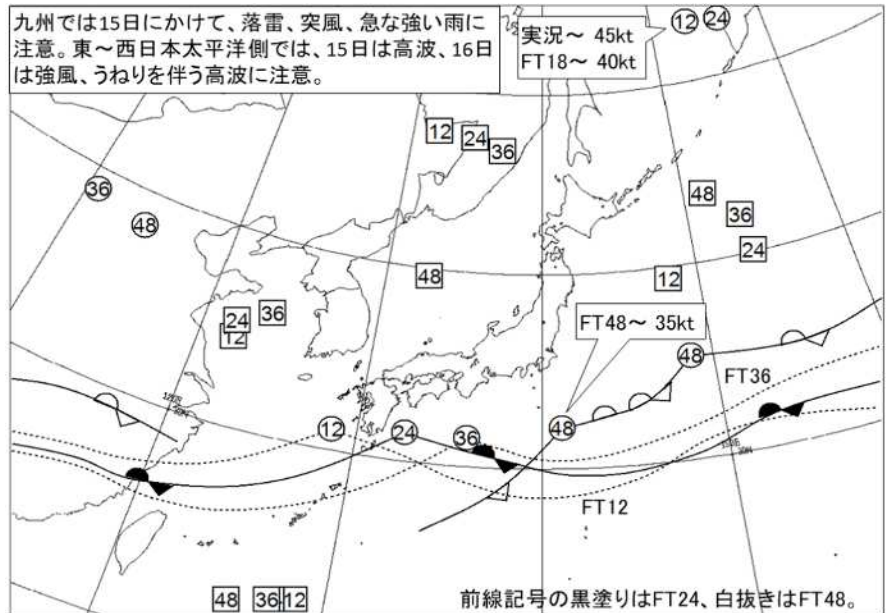


1. 実況上の着目点

- ① 前線が、華中から種子島・屋久島付近を通り日本の南へのびている。前線南側の奄美周辺海上では激しい雨を解析。500hPa 5760m付近の正渦度に対応して前線の北側の九州の西海上付近にも雲域がひろがる。
- ② 日本の東の高気圧が東へ移動。中国東北区の高気圧が東へ移動。
- ③ 大型で猛烈な勢力の台風第4号が、マリアナ諸島付近を北西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は15日にかけて華南から本州の南海上を通り日本の東にのびて停滞する。1項①の正渦度の影響で、九州西方海上で14日夜には前線上に低気圧が発生し、15日にかけて四国の南へ進む。一方、本州付近では1項②の2つの高気圧の間で弱い気圧の谷となる。
- ② 16日は、2項①の四国の南の低気圧は日本の東へ進む。一方、500hPa 5640m付近のトラフ接近で、日本の東で前線上に新たな低気圧が発生して発達しながら北東へ進む。この低気圧や黄海から東へ北日本へ移動してくる高気圧の影響で、東日本太平洋側では湿った北東風が入り雲が広がりやすい。
- ③ 2項①の低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。九州では15日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。本州付近では15日から16日にかけて、2項①の弱い気圧の谷の中で地上の昇温の影響や500hPa 5640m付近のトラフの接近も加わり、落雷、突風、急な強い雨に留意。
- ④ 15日にかけて、2項①の前線と高気圧の間で気圧の傾きがやや急となり、やや強い風が吹き、波が高くなる所がある。東～西日本太平洋側では15日は、高波に注意。16日は、2項②の日本の東へ進む低気圧と本州付近へ移動する高気圧との間で気圧の傾きが急となり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。また、東～西日本太平洋側を中心に、1項③の台風第4号を波源とするうねりが到達する。東～西日本太平洋側では16日は、強風、うねりを伴う高波に注意。
- ⑤ 全国的に日中は昇温するため、北～東日本の多雪地では16日にかけて、なだれや融雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項①の低気圧や前線の予想は、不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間) : 多い所 (100mm以上) はない。

② 波浪(明日まで) : 伊豆諸島・近畿・四国3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。